

■ふらつき感と脱力で発症したミクロスポリジウム症

症例は22歳男性, 生花業. 海外渡航歴なし. 牛の生レバーをよく食べる. 飼い猫と一緒に寝ることが多い. 頭痛, 嘔気, ふらつき感で発症. 頭部MRIで右小脳核および大脳(白質と一部の灰白質)に多発性小病変(最大径1cmまで)を認めた. 胸髄レベルの病変も確認された. 血液好酸球数が軽度増加(7.4%). 髄液では, 軽度のリンパ球増多を認めた. 胸腹部に内臓病変なし. HIV抗体, トキソプラズマ抗体陰性, CD4陽性細胞数正常. 診断目的で, 脳生検が施行された. 組織学的には, 白質を中心に壊死性病変が形成され, 泡沫状マク

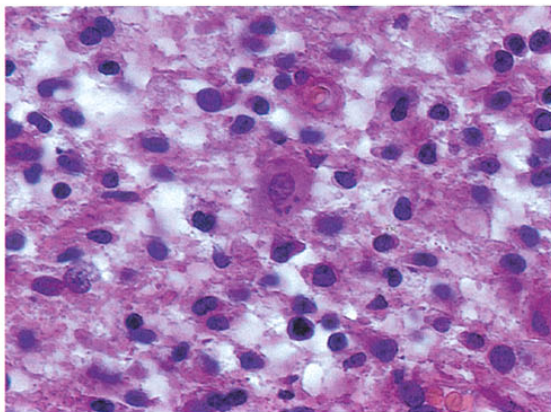


図9 健康人に発症した脳ミクロスポリジウム症Ⅰ(HE染色) マクロファージが多数集簇する壊死性病変が大脳白質に形成されている. 中央のグリア細胞の細胞質に好塩基性顆粒状封入体を認める(大阪大脳外科, 吉峰俊樹博士のご厚意による).

ロファージが集簇している(図9). 一部の腫大したグリア系細胞の細胞質内に好塩基性の強い小桿状構造物が認められた. 細胞質内空胞に集簇する spore 様構造も観察された(図10). 患者血清を用いた免疫染色で, 腫大するグリア細胞が陽性に染色された. 患者は抗原虫剤(アルベンダゾール)投与で軽快し, 経過は良好である. 以上の所見から, *Encephalitozoon* 属ミクロスポリジウムの感染症が強く示唆された(診断に関して, 防衛医大寄生虫学, 赤尾信吉博士の同意を得た). 牛レバーが感染源だった可能性がある.

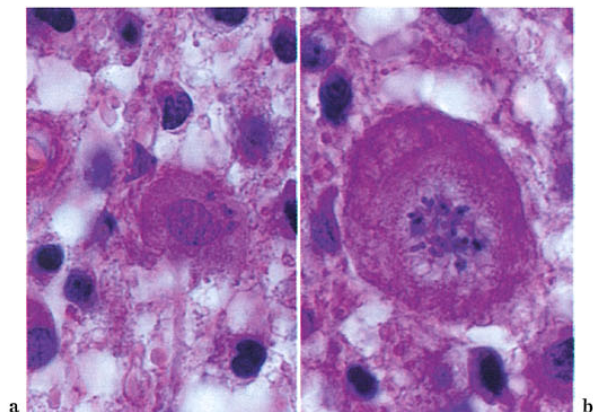


図10 健康人に発症した脳ミクロスポリジウム症Ⅱ(HE染色) 腫大したグリア細胞の細胞質内に好塩基性の小桿状構造物が確認される(a). 桿状構造は, 一部細胞質内空胞に集簇している(b)(大阪大脳外科, 吉峰俊樹博士のご厚意による).